

「国保死亡事例」調査の概要について

2007年3月15日 全日本民主医療機関連合会・国民運動部

06年度の国民健康保険の滞納世帯480万（19%）と約5世帯に1世帯が滞納世帯となっています。滞納者に対する制裁措置として35万世帯に資格証明書、122万世帯に短期保険証が発行され「国民皆保険制度が崩壊の危機」に瀕しています。

この間、全日本民医連の加盟事業所では、資格書、短期保険証の発行により受診が著しく抑制され「手遅れになった事態」等、いわゆる国保に関する困難事例が広がっていることが各地から報告されています。

こうした深刻な事態を踏まえて、全日本民医連は、加盟事業所で把握している「国保死亡事例」についての緊急調査を2月に実施しました。

調査結果の概要は以下の通りです。

1. 調査対象期間:2005年1月から2006年12月までの2年間
2. 対象者:資格書、短期証、無保険で、受診が遅れ、死亡に至った事例
3. 結果:全日本民医連に加盟する16県から29の事例が寄せられた。(但し、民医連外の医療機関での事例3例と今年に入っての死亡事例3例含む)
4. 29事例の属性(表-1参照)
5. 結果の考察
 - ① 事例の属性については、表-1の通りで、年金受給対象者（60歳以上）が14人、未受給対象者が15名であった。男性20名、女性9名であった。
 - ② 60歳以下の会社員および無職の方の特徴は、リストラにあった後、技能や技術を活かした再就職ができないまま、病気がかさなり、働くこともままならず、保険料が払えず、無保険や資格証になっている。その結果、医療機関を受診できず、売薬で済まし、どうにもならなくなってから受診、または救急車で搬入されている。
 - ③ 60歳以下の自営業やパートの方は、事業の不振や倒産で借金の返済を抱えながら、病気になり、保険証を所持していても、自己負担に耐えられず受診が遅れている。それは、表-1の「保険証の有無」のその他（経済的理由で未受診）に表れている。
 - ④ また、年金生活者でも自己負担が重荷になり、受診を控えているのが、同じく表-1の「保険証の有無」のその他（経済的理由で未受診）に表れている。また、10万円をこえる年金があっても借金の返済があり、月2万円足らずで生活をしている人がいた。
 - ⑤ 行政の対応も、保険料が払えない状況にあるにもかかわらず、適切・迅速な対応をしていない。また、緊急入院のため医療機関側から行政に保険証の発行を求めても、「滞納保険料の相談後なら」等、機械的な対応がされている。

6. 私たちの緊急提言

- 1) 短期保険証や資格証明書は、著しい受診抑制を招いており、今回の死亡事例も発生している。国保法にもとづき「制裁措置」を撤廃し、短期保険証や資格証明書の発行は直ちに止めること。
- 2) 特に、子どものいる世帯、高齢者世帯への資格証明書の発行は止めることを緊急に通知すること。
- 3) 生活保護の申請を受理をしないことを直ちに止め、生活保護を適用し相談にのること。
- 4) 高すぎる国保料(税)を引き下げ、国庫負担を元に(45%)戻すこと。

今回の調査で寄せられた事例から「お金の切れ目が命の切れ目」になる実態が明らかになりました。安倍首相は3月6日の参議院予算委員会で、日本共産党、小池晃参議院議員が国民健康保険証のとりあげの実態や死亡したりする患者が出ている問題をとりあげた際、「本当にそうであるなら、そんなことがないように指導しなければならない」と答えました。

全国保険医団体連合会が行った「国保資格証明書の交付を受けた被保険者の受診調査」では、一般被保険者受診率の32分の1程度（神奈川県）、113分の1程度（福岡県）と受診を著しく抑制している実態が明らかになっています。こうした実態にもかかわらず、2006年の制裁措置率（資格書+短期証/滞納世帯）は全国平均で32.8%、最高の熊本県では88.3%となっています。（中央社保協調査）

受診抑制によって悲惨な事態を今後起こさないために、「政治の責任」として国保法の正しい運用を各自治体に指導することを求めるものです。

表一1 国保死亡事例29例のまとめ(死亡者の属性)

年齢	性別			職業					保険証の有無			
	男	女	計	会社員	無職	自営業	パート	その他	資格書	短期証	無保険	その他
30～39	1		1	1							1	
40～49	1	2	3		2	1			1			2
50～59	9	2	11	1	6	2	1	1	2		9	
60～64	7	2	9		4	1	1	1	3	1	2	1
65～75	1	2	3		5				4			1
75～	1	1	2		2						1	1
合計	20	9	29	2	19	4	2	2	10	1	13	5

全日本民医連「国民健康保険死亡調査事例」調査 事例一覧

2007年 3月15日 全日本民主医療機関連合会 国民運動部

事例番号	年齢	性別	患者の有無	職業	国保	直接死因	死亡日	死因	基礎疾患	通院状況	通院状況と仕事・経済、家族状況	死亡に至るまでの自治体の対応、その他のコメント	備考
1	65	男	患者	無職	資格証	(肺ガン骨転移)呼吸不全	2006年8月13日	病死	肺気腫	中断	05年4月に他院にて肺気腫の入院加療して退院後、仕事(タクシー運転手)がなくなり、収入が途絶えたとのこと。以後、治療を中断していた。年金がもらえるようになった06年春まで国保料滞納。家族は遠方にいる息子のみ。迷惑をかけないようにと詳細については知らせていなかった。	本人からは国保へは全く相談をしていなかった。資格証が一方向的に送られてきたのみ。当院入院後、MSWより、国保に問い合わせるも、納付相談抜きには発行できないとのことだった。ご家族がすぐに駆けつけられないとのことで、代理でMSWが窓口へ。国保証が発行された翌日なくなった。*滞納額35万円	
2	54	男	患者	無職	無保険	肝硬変悪化	2005年8月中旬	病死	肝硬変・アルコール依存症	中断	2005年2月末に急性腹痛のため救急車で搬送された。医師は詳しい検査を受けるようにすすめましたが、本人は「現在生活保護申請中だが、もし受理されなければ自費となるので」と拒否し、その日は点滴だけ受けて帰宅しました。事情を聞くと、2004年3月に失業し、雇用保険を受給していたが、それも切れ、以後サラ金に金を借り、離婚し現在は一人暮らしをしているとのことでした。早速、SWが付き添って生活保護を申請に行き、SWが同席したところ、アルコール臭が強いので尋ねると、「印鑑や書類を取りに帰ったときビールを一杯飲んでしまった。」ということでした。幸い生活保護を無事受けれるようになりましたが、6月頃から、生活課担当者や知人などに本人から「死にたい」という電話がかかってくるようになったと連絡がありました。当院への受診がその後ないため、アルコール専門病院への受診をすすめるようお願いしました。しかし、8月中旬、生活課担当者より本人が亡くなったとの連絡が入りました。死亡原因は肝硬変の悪化で、発見者はガスの集金者だったそうです。通院を拒否され、なくなれたという残念な結果になりました。		
3	50	男	患者	無職	無保険	糖尿病	2006年4月26日	病死	Ⅱ型糖尿病・アルコール依存症	中断	病棟事務より、無保険の連絡。本人面接で昨年夏までA県に在住し、糖尿病で治療していたが治療費が払えず中断。そのうち仕事ができなくなり、数日前に姉を頼ってH市に来て倒れ、救急車で来院し入院となった。生活保護申請の意思を確認し、福祉事務所と面接も行き、入院日に申請となった。姉からは、A県でも生保の申請をしたが、田畑や土地があり受給できなかったこと、退院後は病院の近くに部屋を借り生活させたいことと考えていることを知った。土地については、売却できない状況であれば、生保を受給できることを説明し、転居先を探すことにした。保護申請20日後に決定通知あり、条件に見合った部屋も姉の隣のマンションで確保することができ、退院後入居しました。ところが、退院20日後、糖尿病が悪化し緊急入院。退院後1週間はインシュリンの自己注射をしていたが、その後はアルコールを飲み、食事をほとんどとっていなかったことが判明。来院時は既にやせこけて意識朦朧。2日後に死亡。		
4	64	男	患者	無職	資格証	虚血性心疾患	2007年1月13日	病死	低栄養状態・高血圧・糖尿病		路上で倒れていて、救急車で搬入。老齢年金を使い果たし、前日から何も食べておらず倒れた。以前生活保護を受給していたが老齢年金が10万円支給となり2年前に生保から国保に変更となった。しかし、国保料滞納となり、資格証明証となった。そのため、医療費は全額負担となり、次回の年金支給日まで生活費の当てがない状態が続いている。生活保護申請したが、12月15日に12月分の老齢年金が入るので、生保適用とならない、15日までは生活費がないので、保護費はさすが、老齢年金を収入認定し、12月1日に遡って廃止することを通告。11月の3日間は生保扱いにするが12月からは資格証明証での受診になるということです。現在の生保の扱いは、当月収入があった場合は、該当月の1日に遡って収入認定をすることです。患者さんは低栄養状態も改善し、3日後に退院。しかし、1月中旬に虚血性心疾患で孤独死されたと知った。この「遡って収入認定をする」取り扱い、問題があるので理論的検討を行いたい。		
5	32	男	その他	会社員	無保険	気管支喘息発作	2005年3月20日	病死	気管支喘息	中断	■家族 妻32歳 パート5~6万/月 14歳、12歳、9歳の子どもの5人家族 ■04年8月タクシー会社退職。職場を転々とし収入少なく国保未加入。市営住宅家賃、学校の費用滞納。発作が起きると近くの医院受診するも医療費未払い理由に受診を断られる。その後売薬のみ。夜間発作の時は救急センターを受診(未払い)。05年3月15日激しい発作におそれ救急車で市民病院に搬送、朝6時に死亡。	救急センター受診、子どもの学校費用、市営住宅など公的機関との接触があったにもかかわらず、適切な対応がとられていなかった。無保険者の受診システム(無保険者に対する医療機関の対応)の確立が必要。	
6	61	男	患者	日雇い	無保険	大腸癌、リンパ節転移	2005年6月17日	病死	大腸癌	その他	2005年1月末が初診。その数ヶ月前から倦怠感を感じていたが無保険だったため受診できず、市販薬でごまかしていた。日雇いの仕事はつづけていたが、いよいよ痛みを我慢できず、市役所の国保課に相談し、約2万円の保険料を支払い短期保険証を持って受診。精査の結果、大腸癌と診断され即日入院。仕事もできない状況であったため、医療費の支払いもできず生保申請となる。術後一時退院はできたものの、再入院し病院でなくなった。家族は遠方にいたが、支援できず。5年ほど前まで国保証を持っていたが、保険料滞納が続き、保険証が送られてこなくなり、受診抑制となっていたケース。もっと早く受診していれば、最悪の事態は免れたかも知れない。		

7	55	男	患者	自営業者	無保険	膵臓癌、肝転移	2006年6月1日	病死	膵臓癌	その他	一人暮らし。自営の電子機器の組み立ての仕事をしている。06年の1月頃から腹部、背部に痛み、倦怠感を感じ、市販の胃薬を飲んでいて、保険証が期限切れだったため受診できずにいた。4月に嘔吐で来院。期限切れの短期保険証を持って受診。膵臓癌、肝転移の末期であった。即日入院。その後、保険料を納め、国保を発行してもらったが、仕事もできず、家族の支援もなく生保を申請。入院中のまま6月1日になくなる。	結果的には、保険料の納入で短期保険証を発行してもらい、入院後は生活保護の適応となったため、入院費などの問題はなかった。しかし、保検証の期限切れのため、受診が遅くなってしまったことは受診抑制につながった。 * 滞納額 35万円
8	57	男	患者	無職	無保険	肺癌	2005年5月11日	病死	肺癌	その他	一人暮らし。結婚歴なし。家族関係が悪く、援助してくれる家族はいない。1年半前まで仕事(重機修理)をしていたが、リストラされ半年間は失業保険で暮らしていた。その後、仕事も見つからず、預貯金で生活。退職後から国保料の支払いができなかったため、保険証の切り替えができず無保険だった。1ヶ月前から食欲不振を自覚していたが、受診できず、その後救急車で来院。本人から「医療費が心配だから病院には来られなかった。保険証がないから入院したくない」と訴えあり。しかし、病体は肺癌末期。生保申請し、入院費などの問題は解決。入院して1ヶ月半後になくなる。	保険証がないため受診抑制になっていた。
9	79	男	患者	無職	経済的に困難	重症肺癌	2007年2月16日	病死	不明	中断	03年10月から12月までの入院費用14万円を年金から月1万円を分割して返済していたところ、妻も05年12月に大腿骨頸部骨折で06年2月まで入院したため、その入院費用9万5千円も未払い金になり返済額が増えた。ご夫婦ともに退院後、来院することはなかったが、年金支給月には毎回遅れることなく1万円ずつ分割返済していた。本人の未払い金が完済しかけた2月3日朝、救急車で来院。、重症感染症で全身状態悪く、ICU入院となる。数日前より、歩行困難で便失禁などもあったが、治療の甲斐なく2月16日死亡。	
10	55	男	患者	パート・アルバイト	無保険	出血性胃潰瘍による出血性ショック	2006年10月19日	病死	骨盤骨折	中断	06年7月26日骨盤骨折にて、他院より紹介入院。8月1日頃、医療費支払いについて相談あり。高額委任で支払いたいとのこと。生保の話もしたが、働いており、収入もあるので医療費ぐらいは払えるとのこと。(本人談)国保課に問い合わせたところ、国民健康保険の資格を1月に喪失しているとのこと、本人に確認すると国民健康保険証の原本を持っており、保険証は市に返していない。1月より人材派遣会社に就職しているので、その社会保険を持っているとのこと。MSWとともに自宅に訪問。社会保険の保険証(カード)があった。委任手続きのため、本人と面談。7月分の給与が入ったら払えるとのこと。しかし、退院の日、無断でいつのまにか病院からいなくなっていた。7/26~9/20の入院費383,904円を支払わずに退院。	カルテにある連絡先に電話するも使用されておらず、連絡先になっていた元妻に連絡したが相手にされず、保険証にある人材派遣会社と連絡。4月退職で保険資格は喪失していた。ここで完全に無保険と発覚。無保険ならば200万円の医療費が未収となる。カルテにある自宅を訪問したが、別人の表札になっていた。一緒に訪問したMSWの記憶をたどり保険証を取りに行ったアパートを発見。病院にすぐ連絡するよう伝言を残す。2日後突然の来院。入院時はほかの人材派遣会社で試用期間として働きはじめたところなので保険証はつくってもらえていない。家も昨年売却し、借金返済に当て、近くのアパートにかわっている。妻ともその時に離婚した。国保の加入手続きをしないと200万円近い請求になることを伝え、国保に加入して保険証を持ってくると毎月1万円の分割払いの誓約書を書いてもらった。その後、連絡がとれなくなったが、10月14日に来院。10月11日付けで生保の申請をしてきたとのこと。その間は無保険になるので、再度国保に空白期間の加入資格を取るよう伝えた。しかし、10月19日未明に吐血して来院。出血性ショックで永眠となった。もともと入院時に基礎疾患として胃潰瘍やアルコール中毒などなく、食べるものがなく自暴自棄になって酒浸りの日々を送っていたようだった。医療費については、保険証を原本で確認しており、医療機関には否はないため、返戻には同意できない旨を伝えたが、医療未収金としての本人負担分383,904円が回収不能となっている。
11	52	男	患者	会社員	資格証	大腸癌	2006年1月30日	病死	不明	通院中	一人暮らしの板金・パイプ溶接の仕事。日給月給で手取り16万円程度。(05年3月7日、3月25日外来受診。10割負担。)05年4月7日、身体の不調訴え受診。半年前より調子が悪かった。すぐ入院。4月9日、点滴を引き抜いて自宅に帰ってしまい、病棟スタッフ、家族の説得で帰院。医療費のことが心配になった様子。	入院により仕事ができなくなり、収入が途絶え、生活保護を申請。以後、医療費の心配なく、入院治療を継続。9月29日退院。10月12日再入院。1月30日死亡。多くを語らない方で、真意はわからないが、4月に入院される前に2回外来受診しているが、その時の医療費が3万円。入院はしたものの、とても自己負担額は払えないと点滴を引き抜いて帰られたのではと思う。その後は生保で死亡されるまで治療が継続できた。滞納額は77万円。

12	65	男	患者	無職	資格証	膵臓癌	2006年11月23日	病死	糖尿病	通院中	06. 8. 2当院受診、黄疸がひどいため入院となる。国保資格者証との連絡はいる。事情を聞くと、03年頃から国保料を滞納し、保険料の支払い通知が来ていたが、支払えないため、放置。いつの間にか資格者証になっていた。06年6月頃より体調が悪く他院を受診した。その際に、資格者証が保険証と違うことがわかった。10割の医療費を払った。その後、体調は悪かったが、医療費の支払いが困難であったため受診しなかった。入院後、膵臓ガンであることが判明。入退院を繰り返しながら、抗ガン剤治療を受けていたが、06年11月23日になくなった。厚生年金と国民年金とで約14万円／月あるが、そのうち8万円／月を借金返済、家賃4万8千円支払っている。借金は、生活と母の葬儀代のためにした。課税世帯。結婚歴はなし。両親は死亡。6人兄弟の長男。	保険証を変換してもらうために市の国保課に相談した。入院したと言うだけで、無条件に保険証にすることはできない、保険料支払いについて具体的な相談ができれば、変換すること。弟が国保課に相談に行き、弟が保険料を2万円／月ずつ支払うことで保険証変換となった。
13	59	男	患者	無職	無保険	肺炎、脱水、低栄養	2006年7月30日	病死	糖尿病	中断	妻と二人暮らし。鉄鋼の会社に勤めていたが、6年前に交通事故で足の複雑骨折をし、リストラに遭った。障害は残らなかったが、仕事が見つからず、妻のパート収入で生活。国保料を滞納し病院にかからなかった。10年前に糖尿病と言われていた。06. 7. 31救急車にて初めて来院。受診の3～4日前より、食事がとれず足が立たなくなった。脱水による意識障害や高度低栄養、肺炎により即入院されたが、翌日、意識がないままなくなり、無保険のため家族には22万円の支払いが求められた。	死亡に至るまでの対応については、本人任せで家族はわからない、と。本人が納付相談をしていたかどうか不明。死亡後、息子が自治体に保険適用してくれないか、と相談した。
14	43	男	患者	無職	経済的に困難	急性腎不全	2006年4月13日	病死	アルコール性肝硬変、出血性胃潰瘍術後	通院中	左官業だったが、体調を崩し、半年前より休業中。前医で出血性胃潰瘍で手術後、体力もなく就労できず。実母、高卒2年長男と3人暮らし。主な収入は実母の年金とパート13万円。（*妻とは離婚。）前医の未収約70万円。当院の未収分約70万円。合計140万円。国保の滞納あり、お金がなくて受診。05年6月2日 他院で手術。05年9月～入院→在宅へ3回目の入院で亡くなった。	
15	47	女	患者	無職	経済的に困難	後腹膜腫瘍	2005年1月15日	病死	後腹膜腫瘍	その他	夫の事業の失敗による自己破産後、本人の実家近くへ県外より転居。半年前より症状があったが、金銭面で受診できず。初診時、触診で腫瘍を確認できるほどになっていた。収入25万、返済10万円。夫は左官業で、働きながら長女名義(20歳代、こどもあり)の借金を返済していた。8歳の次男と3人暮らし。（*長男は20歳で白血病死）初診04年9月、即入院となり4ヶ月間の療養。いったん2週間の在宅療養となるが再入院、05年1月15日当院にて死亡。	
16	55	女	その他	不明	無保険	子宮癌	2006年1月25日	病死	子宮癌	不明	保険税を滞納していたので保険証が本人に渡っていなかった。時々具合悪そうだったので娘さん・友人から「病院へ行ったら」と言われていた。しかし本人はなかなか病院には行かなく市販の痛み止め薬を飲んでた。06年1月24日、どうしても我慢できなくなったので救急車で入院となった。娘さんがありたけのお金1万円を持って市役所で保険証をもらってきた。病院での治療となったが手当てができるような状況ではなく、翌朝女性は無くなった。子宮癌であった。	2003年10月 1年の国保証交付 2004年12月20日 来庁 3ヶ月短期保険証交付 2005年3月 国保税納入案内 応答無し 未交付 2005年6月 国保税納入案内 応答無し 未交付 2005年9月 国保税納入案内 応答無し 未交付 2006年1月 娘さん 1万円持参 3ヶ月短期証交付
17	56	女	患者	無職	資格証	心筋梗塞	2005年12月30日	病死	脳出血後後遺症	通院中	03年4月27日脳出血でK病院へ救急搬送され脳出血後後遺症により右片麻痺にリハビリ目的でN病院へ転院し退院後当院を紹介、03年7月23日受診。既往として高血圧症があり心臓の状態もリスクにあげられていた。04年11月の受診時に本人からの訴えで保険診療から自費診療に変更。それ以前は役所で滞納していた保険料の一部を支払い、短期証が発行されていたが、昨年で金策にも困り資格証になった。自費診療変更後担当医からMSWへの相談などアプローチを試みるも「自分で手続きをする」といった具合で具体的な対応が出来ず、医師が何度も精密検査を進めたが「お金がかかる」検査を拒否。12月に会計で自費診療が長期間行われていることを患者へ質問すると資格証になっていたことがわかり、役所に相談し短期保険証が発行され、7割分の返金をすることとした。翌日、娘さんに「肩が凝ったからもんで」と肩もみの最中に心筋梗塞でなくなった(意識不明で搬送、まもなく息を引き取った)。保険料はお金がないことと保険料が高額なため10年以上滞納してました。	
18	61	女	患者	無職	経済的に困難	膵臓癌、肝転移	2006年7月11日	病死	膵臓癌、肝転移	その他	30年前に夫を亡くし母子家庭。一人娘も結婚後離婚し孫も含め同居していたが、7年前に娘が薬物中毒で死亡。高2中2の孫との3人暮らし。パン屋、スーパー、飲食店の仕事をし、入院前は14万／月のパート収入と37,000円／月の年金が60歳から支給されたばかり。入院2ヶ月前から無職になる	国保加入しているも自己負担金が払えず受診せず。仕事も行けず、家の中をはって生活。耐えきれず受診。(06年6/21初診)2週間前から食事も出来ず激しい腹痛。本人、民生委員に相談。6/26からMSW面接。入院必要であり生活保護を検討。6/28救急車で来院入院。入院日から生活保護となる。国保料滞納はあったものの集金で少しづつの納付。

19	60	男	患者	無職	無保険	肝細胞癌	2006年10月31日	病死	肝硬変、肝細胞癌	その他	関西の出身でB県には30年来。仕事が無く家賃が払えず06年6月にアパートを強制退去。ホームレスに。土建業を転々としていたため日雇い労働につく。10月11日土建の仕事のトラックごと行方不明になり社長が家出人捜索願を警察に出す。10/27同僚に発見され社長と共に救急車で来院。腹水・黄疸で入院。身寄りなく所持金0円	入院時即福祉事務所へ一報入れる。入院一週間以内の死亡の場合は救急医療費補填事業を活用するように指導。意識レベルが低下する本人から何とか家族の連絡先確認し、実家連絡するも引き取りも困難。10/31死亡。
20	63	男	その他	無職	資格証	衰弱死	2007年2月5日	病死	パーキンソン病	その他	99年、勤め先のリフォーム会社を体調不良で退職。05年6月パーキンソン病の診断を受けその後寝たきりに、自宅で妻の介護を受ける。06年10月国保が切れ、生活が苦しく、本人も入院を拒んでいた。06年12月ころからパーキンソン病と糖尿病により衰弱しはじめ、1月末から食事がとれなくなり、妻がジュースを飲ませていた。2月5日医師の診察を受けないまま死亡、友人が119番通報して発覚。周囲に協力を求めなかった理由として、「他の人に家の中が散らかっているのを見られるのがいやだった」と説明	介護保険、医療費助成制度について区は「申請や相談が無かった」と回答
21	58	男	その他	無職	無保険	誤嚥性肺炎	2005年3月28日	病死	肺気腫、多発性胃潰瘍、アルコール依存、膀胱腫瘍疑い	その他	家族状況：妻と二人暮らし、子供は1人長男、C市に家庭を持っている。もともと飲酒量が多く、肝機能障害で入院歴有りその後かかりつけの病院が閉鎖となり治療中断。04年10月頃より寝たきり傾向に。05年1月に兄の会社が倒産、本人も会社役員であった。その後無保険状態に。3月にはいと歩行不能、食欲が極度に低下。妻が心配し受診を促すも拒否。電話で了解を取り看護師が訪問、訪問した看護師は「保険証が無いからなのか、よくこの状態で、こうなるまで病院にかかれなくて、とショックをうけた。その後医師が臨時往診、3月11日に市役所へ保険証交付の手続きへ。そこで「今すぐ6万払わなければ、交付できない」と対応される。家族は会社が倒産してお金がない、今すぐ入院しなければならぬと言うも、「病気だと言う証明が必要なので診断書を持参するように」と冷たい対応を受ける。怒りをおさえ、医師にお願いし診断書作成して、事務長・師長が役所に持参し交渉。「骨と皮だけの状態でこのままだと死んでしまいます。1人の命を見捨てるのですか」と訴えようやく保険証が交付される。その後入院、治療開始となるも亡くなった。	
22	83	女	その他	無職	無保険(期限切れ短期証)	不明	2006年2月4日	不明	高血圧症	通院中	治療が中断し状態が悪くなり娘さんが2月3日に付き添い通院。2月5日に娘さんが亡くなっているのを発見。従って死亡日時は正確には不明。不審死として扱われた。月2万程度の年金で町営住宅で生活。身内は娘さんのみ。事情があり娘さんを産むと嫁ぎ先から帰された。以来ひとり暮らし。この住宅ではそれ以前の2年間で2人の孤独死が発生した。	D町は短期証交付を県には報告せずに発行していた。2006年度も県へ資格証明証発行数は報告されていない。
23	69	女	患者	無職	資格証	肺炎	2006年1月26日	病死	糖尿病	中断	05年9月より臥床状態、民生委員訪問し、受診促すも家族は対応できず(生保申請をしてから受診させたかった。資格証でお金もなかった)収入は次女のパート収入7万/月のみ。次女の夫は仕事についても”人間関係”を理由に退職を繰り返していた。次女は何度か市に生保申請の相談をするが受け入れられず。05年12月末に動かなくなった本人を見て、家族が救急車を呼び入院。SWが市に生保申請を電話、06年1月に家族とSWとで、市にて生保申請受理となった。その後市職員を交えてカンファレンスを行ったが、ご本人の病状は改善せず、06年1月に肺炎で亡くなった。	
24	50	男	患者	自営業者	無保険(受診時保険証確認できず)	急性大動脈乖離	2005年10月31日	病死	不明(高血圧?)	中断	・一人暮らし、身寄り無し。八百屋を経営、借金返済のため、夕～夜に他の仕事をしていた ・国保滞納	・気分不良にて、前日は我慢し、翌朝八時頃受診、緊急入院となり、当日の16時頃死亡(初診)
26	49	女	患者	自営業者	資格証	直腸癌	2005年2月	病死	直腸癌	その他	2年前に腹痛・嘔吐のために総合病院を受診し、異常なしと診断される。03年より自営のスナックの経営が不振となり、国保の資格証となった。症状があるので市販薬を使っていた。症状強く息子に付き添われて救急外来を受診。その場でファイバーで直腸がんと診断。入院を医療費が払えないと拒否するため相談室へ連絡があった。その後入院を繰り返し死亡される。離婚後独居であった。別居していた長男が失業して最近同居をしていた。	

26	69	男	患者	その他 (日雇 い作業 員)	資格証	胃癌	2005年4月	病死	胃癌	その他	株で儲かり、退職をして投資を続けていたが、失敗をした。厚生年金受給中であつたが借金の返済におわれ、日雇いの土木作業員として働いていた。友人に付き添われて救急外来受診。腹水が貯留しており、胃がんと診断。手術不能で保存的に加療し、1ヵ月後に死亡。離婚してアパートで一人暮らしをしていた。息子が一人いるが交流は全くなかつた。	入院時生活保護申請受理される。
27	62	男	患者	自営業 者	資格証	多臓器不全	2005年10月	病死	腸穿孔 (憩室炎よ り)S上結 腸癌	その他	自営で土建業を営んでいた。仕事が減ってきた。再婚同士の結婚をしていた妻が死亡後独居生活をしていた。妻が会社の経理をしていたがそれができないこともあり、事業の借金も増えていた。友人の援助で救急外来受診。腹膜炎のために緊急手術をすることになるが医療費払えないと拒否。緊急術後結腸がんが見つかり手術をするが肺炎を併発し1ヶ月で死亡。親戚への連絡も拒否し遺体は実の妹が離島へ引き取りをした。	入院時生活保護申請し、受理される。
28	68	女	患者	年金生 活者	経済的 に困難	不明	2005年3月22日	病死	高コレステ ロール血症	中断	M市の基本健診目的に03年9月9日発来院。①血圧170/99②162/92と高く、検診結果、総コレステロール323、HDL203、TG192。2回目9/17来院で結果を基に高脂血症の薬処方。その後、中断となり、12/18診療所からTELかける。04年2月16来院。血圧154/82 2月20日来院。04年3月18日来院、152/82 146cm、47.5kg 14日分処方。4月2日来院、142/74 21日分処方。HL低下で薬やめたいと言うが、薬の効果でHL、血圧安定のため、止めないよう担当DRが説明。その後4/28、5/19、6/9と来院、以後中断。04年8/14 05 1/21とお手紙ですが 3/23に「前日孤独死」と警察から問い合わせのTELがあつた。経済的に大変そうで、医療費を節約していた。	
29	61	女	患者	パート・ア ルバイト	短期保 険証	不明	2007年2月16日	病死	糖尿病	中断	糖尿病、足が壊死した状態で亡くなっていた。06年6月より中断。その後11月頃電話でフォローもするも3割負担が大変と受診を望まず。糖尿病のため足が壊死した状態で亡くなっていた。 勤労状況:パート8万円/月 お弁当屋。掛け持ちで仕事を行い体力的に大変だった、12月には仕事も辞める。医療費は6千円、薬5千円前後、家賃:物置として使用しているアパート4万円と、居住は22年前にスナックとして借り、閉店後生活拠点としている元店舗8万円(風呂無し)。保険料の滞納有り。 家族状況:独居。県外の兄弟とは絶縁状態。 交友関係:一緒に買い物に行く人、食事援助する人などの交友あり。	保険証交付についての相談は本人が希望せず、名前を出して役所に相談できなかった。健康保険証がカード化され、本人がわかりづらく所持していなかつた。国保課とは連絡をとり、他で受診していかチェック。近所の方が生保の申請をすすめたが、本人が拒否していた。拒否の理由として、制度を使うための、制限(借家を2軒借りている)や、本人は「自分より困っている人にそういうこと(制度のこと)言っただけ」などといっていた。SWの積極的な介入を好まれなかつた。